

昭和16年1月1日（水）

朝飯後、甚十郎氏宇佐行き汽車は臨時列車もあり、それでも混雑は追（のが）れざりしと。十一時五分発、飯りは午後四時頃。森田さん八時の汽車にて出発。帰省の途に就かる。蒲鉾土産にやりし由。巖、二時過ぎ和博、悦子を連れ来る。林檎六七箇持来らる。余、剥いて遣る。母堂更に、饅頭供え餅代わりのを子供に与ひらる。野口さんグリコ一個づつ与ひらる。飯りは林檎を、更に手に持たせて遣はさる。約一時間計り局内にて咄す。巖も新体制に依り、一分刈り頭にす。今朝髯剃り。十一時半、公会堂に奉祝会に臨む。印刷物なく折詰一ヶと、会場には酒一本づつ配布。余一本を席上頂き飯る。快晴、日向は暖かし。七時過ぎミワさんより電報。西条駅発信「モジセツゾクセヌ 11ジヒロシマタツ」。明朝七時半到着予定。さるにても、此の寒空に駅にて五時間も待居ること、同情不禁。併し莫産で早く寝れることとなれり。甚十郎氏より飴の土産は母堂の心遣りにて、野口氏に多数与ひ、余と甚十郎氏少しく頂く。夜、鶏肉馬鈴薯牛蒡千切り。これまではミワさん準備して行かれ、明朝分は何にさるるか知らん。八時過ぎ寢床。

昭和16年1月2日（木）

七時過ぎ、表道路を掃除して居る。雨降り来る。七時半相当降り出す。乃ち和傘を持ち駅まで出掛く。ミワさん来る。神酒四本求め来らる。此の朝巖来たり。餅と神酒と持込む。巖たることを認識不能、名を聞くも面はゆく、重箱は後より受取りに来ると云ふより、何れ其の人が来れば分かることだと思ひ其の俣とす。後、重筥に心当たりありとて、ミワさん巖と断定さる。午後より降雨。甚十郎

さん、別府行き一分遅れにて乗り遅れ、此日遂に中止。ミワさん金光カステラ饅頭多数求め来らる。夕方手鍋頂く。ミワさん多分髪結いに行き、丸髻（まるがみ）結ふて来らる。隣家の伯母さんに、若くなつたと褒めらると云ふ。夜、甚十郎氏出掛けてなかなか眠らず。気温上昇、暖かなり。貢氏は今回九州行きを中止の結果、金子二十円を甚十郎氏に托して母堂に贈らる。甚十郎も医師に礼金を合わせ、二十円頂かせて下さる。

昭和16年1月3日（金）

快晴、気温上昇。執務中炬燵すれば、暖かさに流汗淋漓たり。法規類加除訂正に一日を費やせり。尤も背表紙の作成も、時間を費やせしこと夥し。甚十郎氏、十時六分の下りにて別府に出発の筈。丸髻に結ふたミワさん、記念撮影を甚十郎氏にも同意を得、九時過ぎ母堂と共に四人連れにて、駅前写真館にて一緒に撮る。次いでミワ氏の要求に依り、余と二人にて撮る。十時の汽車にて甚十郎氏、別府に行かる。此写真屋も後家さんらしいが、良く勤勉励精、道徳堅固に家名を傷つけず、時々五百、千と国債を買ふ。武藤義夫より蒲鉾の返事、鯛団子を福岡より到着とあり。夜、林檎及び梨子頂く。此の夜、饅頭数回頂き飯を廃す。腹加減良し。十時前就床。身体具合多少異状あり。母堂早く寝ます。疲労気味なり。

昭和16年1月4日（土）

温暖、八時半出勤。伊勢さん未だ不来。ミワさんと共に活動す。十時頃、甚十郎氏別府より来る。昼飯赤飯、甚十郎氏食べて、母堂を連れ活動行き。四時前眠らる。斯くて夕食後、午後七時過ぎ急行にて出発。上京の途に就

かる。数ヶ月東京滞在のことになるか知れぬとあり。氏、別府の行動は地獄廻り。旅館は2, 50の安宿にてあり。但し内湯はなかりし。軍艦入港に依り宿屋は満員、容易に明き間なし。夜林檎、梨頂く。伊勢さん母堂と一緒に八幡より帰宅途中、伊勢さんのみ寄り五時近くまで執務。夕食馳走せり。

昭和16年1月5日（日）

柿坂局長母堂逝去に付き、午後一時の汽車にて、ミワさんに行って貰ふ。往復一円拾銭。市内各局長は弔電報にて失敬したる由。局舎こそ駅前なれ、私宅は十余丁を隔（へだ）つと云ふ。バスに乗り十銭費やす。儀式は五名の坊さんにて荘重に挙行。弔電も一々読み上げ披露せし由。葉書十枚づつ出席者に配られたるが、販りはバスの便なく、皆駈け足にて駅に奔り続け、流汗背を霑（うるお）せりと。斯くて四時の汽車に間に合ひ五時過ぎ安着。一方森田氏五時の汽車に見えず。五時にも各到着都度、野口さん迎えに行く。八時過ぎの分にて漸く来着。余、十時近くまで仕事す。税務署への受給者調べ、局員の給料等の調べ。全部済ませ寝床せんとする際、森田さん降りて来たり。餅二重、子餅30ヶ、白米一升、大根漬け等頂く。外に干し柿もありし。頃日、夜中汗かき、身体特に腹巻きの当てある部分、汗に濡るること幾夜か続く。今朝出血せる如し。

昭和16年1月6日（月）

此の朝、森田さんより頂ける子餅を煮る。習慣として、焼かずに丸ごと湯に入れて、柔らかになるまで煮る。余十一、ミワさん九、母堂七食べらる。余は不相変、大関

なり。尤も余り自慢にならぬ。具はそれだけ別に煮て、鯉節と共に掛けて食ふ。朝切手請求。売捌き所よりの請求も甚だ多し。売切れ分多数あり。午前中快晴、午後より半曇り。ミワさん母堂を連れ松竹館行き。夕食、三時四十分済ます。定額切手請求。拾銭40枚中、五拾銭銀貨混入に付き、午後二時頃、40銭返戻せしむ。砥石60にて求め来らる。余、糊刷毛二本、24と15求む。今日窓口、混合ひしも欠損を見ざりし。寒の入りなるも暖かなり。ストーブ途中消火。九時を過ぎミワさん等帰宅。漸く床を展べ和服に改めんとする際なり。野口さん等、風呂行き。

昭和16年1月7日（火）

夜来降雨、温暖なり。切手請求、午後より請取りに行く。東吉富局長も切手請求に、自転車にて見ゆ。帰るさ猶、歇まず。夜ミワさん手伝ふて茶碗蒸しさる。银杏（ぎんなん）久子より貰ひしもの使用す。澄子より光誌、まこと誌等、外に須藤義樹氏よりの手紙もありて、一緒に回送越せり。年金一期分受取り預かり、九時寢床。ミワさん十二時頃まで、半働半睡の姿勢にて過ごす。林檎、每晚一つ二つ頂き居る。

昭和16年1月8日（水）

快晴。六時前三十分掃除を初め、六時より甘藷洗ひ、表道路掃除す。雨上がりとして泥浮き上がり、徹底的清掃不可能。新聞十時まで見る。朝夕共食事甘藷にて飯を欠く。野口さんへ蜜柑箱へ餅送り越し、我が家にも「しいな」と共に三十切れ程、外に納豆七つ呉れたり。納豆はミワさんの好物とあり。四時頃より曇る。母堂、ミワさん風呂

行き。今日も日中は温度上昇。ストーブ一度消え、別に火を起こし再生す。此の夜薬缶（ホーロー）一ヶ1, 95 銭と、啖吐き壺47銭にて求め来らる。母堂秘結し居らる。快適丸予め求め置きたるものを取り出し、休まるる前飲ませ申す。今朝森田玉五郎氏より社会教育会館に修業（禊ぎ業）し居られ、葉書送付越さる。褒めらるる覚えなきに森田さん何を報告せしか、丸で神様扱いには恐縮の外なし。今日森田さんに過褒も甚だ不感心の旨、訓す。

昭和16年1月9日（木）

初めの間は快晴なりしも、次第に曇り、夕方早く暮れる。切手請求及び受取りに行く。此の朝まで甘藷ありし。夕食に餅焼き雑煮、大半、余頂く。夕方より森田さん等、活動観覧。今日も暖かなり。母堂快適丸の御蔭にて今朝通じありし由。安心せり。餅切りて下さる。一個は福岡へ持ち行くことになれり。今夜頂きし分は「しいな」と白餅と、野口さんより頂きしものに、二三森田さんよりのもの混入せるが、一食にて没有となる。注文の日附印立て1, 60到着。郵便に配置す。森田さん内褥を絹切れにて蔽へ適当に調製して下さる。門扉の幕、耳が切れ居るを発見。ミワさん修理、余も手伝ふ。夜八時頃より降雨。

昭和16年1月10日（金）

晴れたり曇ったり。今日は切手請求なき為、十時まで新聞を見る。頃日、新聞も満足に見ること不能。朝ベル鳴らず、五時まで睡る。大急ぎ便所行き。六時ミワさん神様より販る。体操半ばなり。中止して甘藷洗ひ、五時過ぎより降雨。表道路掃除せず。朝食甘藷のみにて済ます。夕食混御飯、野口さんへも分配す。恰も二階にては白米

皆無、米屋も今日は休業。恰度よい折りなりし。恩給に対する保険料控除申請は、今日を以て期日となり居る為、福岡箕島局宛て速達にて、ミワさんに態々中津局に行き発送の手配して貰ふ。

昭和16年1月11日（土）

恩給受給日。本局の窓口は行列造りて、二三十名長蛇の如し。裏口より局内に入込み、中春氏に資金請求書を手渡し、千円貰ふて飯局。九時半頃、切手請求はミワさんに頼む。午後の受取りは余行く。一時より仕度して土産餅（森田さんよりの一重、野口さんよりの半分を併せ）、東京よりの佃煮、守谷さんよりの生菓子、甘藷の余の分の食べ残し等、二包みとして携行。此の朝降雨。午前九時頃より歇み、陽の光を見得るに至り、幸に座席を分有することも許さる。五時安着。門扉開けて待居る。餅四升搗きて、余の為に持続けつつありし由にて、此の夕飯は餅を呉る。此の夜、風漸く強く、寒威次第に加わる。煖房造り呉る。

昭和16年1月12日（日）

綿入れ造り配給を受く。寝巻も黒に染め直されあり。箕島局より申告方照会。次いで十一日付き申告は、中津より到着せしも不備の点あり。父、来宅せば直に来局せよと通告し来る。此の日頗る寒し。晴れたり曇ったり。新聞及び雑誌を見る。澄子より東京行きに付き色々話を聞く。外出せず。八時三疊にてタドン火鉢を囲んで、毛糸のジャケットを編み直し居る。澄子の傍らに割り込み葛湯頂く。此の夜も餅を頂きたり。鯛、昨日求めたるもの頂く。

昭和16年1月13日（月）

晴れ、風漸く歇む。十時澄子、久子と外出。簗島局に至れば、狭き公衆溜まり一杯の人群れ。販りに立ち寄ることとし一緒に市場に行く時、恰も鯛沢山あり。90銭分、拾銭九尾の割合求め、鮪百匁35求め、更に素麺うどん各二把求め一円交付。販途、簗島局に立ち寄り申告書の訂正。契約者が余、受取人が被保険者とし販宅。澄子等、蜜柑70余銭一貫匁求め来る。襯衣一つとなり鯛を搗く。四時近くまでかかる。澄子は包丁にて細分し呉る。揚げ方まで終了す。夜、餅頂く。蜜柑も食べたり。風風ぎたるも雲は月光を蔽ふ。朝禪洗ふ。夜八時、三疊にて仕事し居る澄子を訪ふて、色々話す。葛湯頂く。九時半引き退き寢床。

昭和16年1月14日（火）

快晴、朝の間寒し。ボール箱に鯛団子入れ幾重にも梱包す。十時過ぎ簗島局に持ち込む。窓口依然多数の人群がり、少時する内、代理見ゆ。記番号、期日記入し貰ひ、他の項は自ら記載す。拾五円頂き小包料30支払ふ。大朝朝刊配達なし。葉書にて取次所（渡辺通り交叉点）に夕刊配達の際、配達方申し遣る。ミワさんより保険年金関係報告時に捺印し、直接熊本に発送す。簗島局より引き返し、古道具屋を漁り手提げ金庫を物色。有りたるも中に箱（くびかせ）るべき桐箱を欠き錠無し。4、50と云ふ。四円にせよと謂ひしも承知せぬ為め、購入を見合わせたり。風風ぎ珍しき好天気なり、久子小麦粉にてうどんを作る。米を購へば、小麦粉も同時に求めしめらるる結果、何れの家庭に於いても小麦粉山積みしあり。夜、葛湯及び梅干し頂く。

昭和16年1月15日（水）

午前晴れ、次第に曇り。藤岡達夫氏宛て手紙発送。次いで上田谷地に、駒次の手紙に高次氏分同封。四時頃より降雨。午前中階下にて陽光を浴び、十四日朝刊分と共に配達の両日分を閲す。隣家正岡氏母堂（娘、親戚人病氣看護の為、上京中）に用事ありと云ふ伯母さん、折り柄母堂不在の為、小母さんを二階に案内せしを階下に直らせ、余二階に上がる。五時可なり豪雨となる。風なし、割合暖かなり。午前中理髪して貰ふ。二ヶ月振りとして、髪も大いに延びたり。

昭和16年1月16日（木）

朝来降雨。八時頃より歇み、一時晴天となり、陽光を浴びつつ階下に新聞を見る。十時頃より再び曇り。多少、降雨気味となる。須藤義樹氏の手紙を取り出すべく中津より持来せし紙袋を漁りしに、道子の保険料拾参円九拾四銭未払いの俛、存置しあるを見、驚きて澄子に金を立換えて貰ひ払い込ます。十月三十日払い込まるべきものなりし。夕方までかかり須藤氏へ手紙書き、振替貯金20円受取り手配す。此の日も珍しく温暖。夕食の餅を頂きつつ流汗額に充つ。風風ぎたり。四時頃より晴天。雅談話、向上、光等全部久子の要求に応じ、昨日売却。30銭は澄子に遣る。八時前寢床。早く寝たるに、午前二時頃覚醒。其の後、午前四時まで殆ど眠らず。其の俛起床。久子藤岡方に夜行く。

昭和16年1月17日（金）

晴天。日中は、春三月頃の気温なり。久子市場行き。

鯛60銭求め来たり。余、例に依り手伝ふ。今回は背骨を抜き、澄子が叩くことを廃め、骨のみ別に潰す。一時頃より四時近くまで働く。久子昨夜九時頃帰り、余の手紙に対し策応、来たる日曜来宅の由。髯剃り、及び剃刀研ぐ。外出せず。手紙も書かず。

昭和16年1月18日（土）

快晴、珍しき暖かさ。デパート休業。午前中階下にて新聞を閲す。ミワさんより手紙。余不在中、天香さん中津に来られ、鐘紡にて講演ありし由。別府より桑原さん電話、ミワさん出現、次いで中津に来られたるやなり。福岡光友会にては、日曜日午後二時より、春吉小学校六号行願、七時より星野先生邸にて座談会開催の案内状、昨日到着。夜多少曇り。

昭和16年1月19日（日）

曇り、午後より愈々（いよいよ）雨らし。和傘を持ち出発。午後一時三十分、藤岡氏来たることは承知しつつ、判然来る時間の打合せなき儘、若し来られたら四時頃までに飯るからと言ひ置いて、さて新柳町を直線に行けば、柳原先生の若者駈けり来たりて、余に挨拶す。柳原夫人、其の他数名、それから小学校に到り裏に廻り、栗原氏先達となり馬穴を取り寄せなどするうち、余は三階の下段に小遣いに案内して貰ひ、そこに掃除道具を取り出し単独に十二の便所を祈らして貰ふ間もなく、一二階を済まして来たり、反対側の男子便所を掃除し初めらる。余は女子十二のを終了すると辞去。栗原氏に十銭会費納めて、飯途に就く。雨大降りとなる五時着。藤岡達夫氏三時間待ち居らる。咳甚だし、風邪引きたる由なるも、顔色憔

悴、形容枯れ橋の態。余は藤岡に向かひ谷口雅春氏の説を援用して、君は我が強く人の好意を容易に受入れぬ性なり。是れが根治せねば、君の病氣は癒らぬと決め付けたり。同氏は憤りもせず、色々話をして八時帰る。遂に座談会に欠席。夜、雨不歇。

昭和16年1月20日（月）

曇り。北風強く、寒氣急に増し来る。道子、森田玉五郎氏に手紙書き。夜夕飯後、久子に愛国パン50銭、飴50銭求めさせ、手提げ金庫の古物屋に、漁りに数件訪ふも「なし」。八時バスにて戻る。髯剃り、澄子に手伝はしむ。二階に上がり明日出発の準備をなす。佃煮は持販ることとす。十時寢床。

昭和16年1月21日（火）

寒氣は遠（さすが）に大寒らし。二時半起床。三時十分水浴、三時半終了。仕度をし四時七分前出発。急ぎに急ぐ。四時十分着駅。乗込みても多少の豫裕、猶あり。座席は空席多し。午前七時三十二分定時着。快晴。文書整理す。午後三時三十分夕食。次いで中井にラジオ器、持来る12, 10。真空管三本不具合、11円に負けて呉れたり。調子宜し。母堂炬燵を座敷に移し、ラジオを聴き退屈せず居らる。八時過ぎ退局。林檎を頂く。皆局員にコブ粉末茶を馳走。愛国パン一ヶづつ、飴数ヶを配給す。伊勢さんには特に鯛団子多くやる。

昭和16年1月22日（水）

降雨。表掃除を欠く。ミワさん受持の旨話さる。風雨強く寒さ厳し。朝の請求金払込みはミワさん行き、午後より

受領方は余行く。御蔭で新聞を十時過ぎまで見るを得たり。夕方雨歇む。今日小豆煮らる。松本由井両氏の都合を聴き、明後日萩の餅を造る手配す。母堂独りで小豆を潰し拵へらる。夜八時過ぎ退局。座敷に母堂の側に侍す。飴を頂く。九時、炬燵に採暖のミワさん居眠る。四十分寢床。

昭和16年1月23日（木）

朝六時頃より細雨。後次第に霽れ、一時晴天。梅鉢を為替窓口に置く。紅梅美しく咲きたり。ミワさん一円にて求めたるもの。午後より曇り。此日頗る暖かなり。ストーブ一度、無烟炭を挿入せしのみ。四時頃より消火。余、小豆磨り鉢にて磨り滅す方す。四時夕食。母堂昨日働き過ぎ風邪気味、早く休養せらる。

昭和16年1月24日（金）

曇り、朝割合暖かなり。六時より餡（あん）作り。母堂起床、一緒に食事さる。餡多少残して作り、明日あたり残余作ることとす。新聞では新正に糯米配給不充分なりしを以て、二月一日の正月時には多少余分に配給せん為、努力し居るやの報道あり。午後切手受取りに出頭。一時よりミワさん飯炊く。序で余搗きて握る。餡多き為、餡を多く使用す。巖に15、伊勢さんに15、二階に18、招待者三名に格10づつ都合30、余等の分拾ヶ余、神様に9、宅の神棚4、仏壇2、以上にて壺升三合、内糯米一升、糠米三合。而して四時半頃、菅家原さん、次いで松本、由井両氏来る。食べ残り五つ宛て送る。蜜柑一ヶ五銭にて四十五銭分求め、食い残し一ヶづつやる。八時近く販る。松本さん、両氏より味海苔及び本村永江茶、土産に

持来らる。余色々話す。猶、巖方には四時近く小雨を冒し持行く。巖奥に居りなかなか応答せず。子供泣き居る様子なり。巖何か言はんとし居るも、間髪を容れず返り来る。細雨繁し。

昭和16年1月25日（土）

朝来、寒気強く小雪降る。朝飯に夕べの残りを頂き、不足分御飯を頂く。十一時までかかり餡製造す。塩入れ過ぎたり。午後より陽射しあり。伊勢さん一時飯宅。昨夜豆炭を炬燵に入れ母堂にと薦めしも、欲せぬ故にて余が使用したるに、今朝まで暖かりし。今夜は湯煖房にせり。母堂にも薦む。道子より葉書。澄子問題に付き感謝し、二郎無罪にて今月中釈放云々。果たして如何にや。今夜頗る冷ゆ。

昭和16年1月26日（日）

朝髯剃る仕度をしたるに、十時に垂（なんな）んとする。乃ち出発す。耶馬溪倶楽部に至れば、既に部長さん初め七八名あり。挨拶して部長の傍らに座を構えたり。十一時近く、会議初まる。欠席多数、豊後町は一時間遅刻す。一時、支那料理サイダーにて頂く。料理代160、外に逓信局参照の慰謝料60、計2, 20。ミワさんより二円受取り、余の蝦蟇口に弍拾銭あり。斯かる当て嵌めたる勘定を持参し、不足の為、借用する如き迷惑をなさんとする事難有し。午後一時過ぎ帰り、仕事に着手。三時半、夕飯再び頂く。ミワさん八時、風呂に行き帰りて寝る。余、時簀堂に時計止まりたれば持行き、両三日かかると云ふ故帰る。駒次より手紙。助役になれる由。富次氏より色々申訳けして来る。広美のこと想像し居る様子、気

の毒なり。湯煖房す。

昭和16年1月27日（月）

朝は晴れたるも、次第に曇り。午後より細雨。切手受取りに行く際、幾分濡れたり。葉書四千枚持来す。澄子より小包、シャツ、ジャケツ。これは澄子が解体して更に編み上げしものを送り越す。何か菓子でも入れて来たりしかと解披したるに、果たしてビスケ一袋挿入あり。面目を施せり。夕食に馬鈴薯、余の為に調達さる。昨夜も同様、而して今日は豚肉入れあり（御汁中に）。夜割合に暖かく、行火（あんか）に居り汗出づ。給料交付。

昭和16年1月28日（火）

旧正二日。朝、切手請求ミワさん往って呉る。午後は余行く。資金請求書も序でに受領来る。然るに更に資金欠乏、一時頃再び往く。午後四時より萩の餅作り、拾ヶ二階に遣る。軟らかに出来、消化にはよからん。四時頃より雨模様となり、暖かなり。朝は遠（さすが）に冷ゆ。餡（あん）は聊か少なき憾みあり。九時半寢床。

昭和16年1月29日（水）

萩の餅頂く。もたれ気味にて、睡きこと甚だし。雨模様。今朝珍しく、午前八時に御飯済ます。母堂も一緒に召し上がる。起きれば鼻汁出て、気分悪しと云ふ。成るだけ寝ませ申す様、薦む。今朝印紙のみ請求、午後の請取りにもミワさん行き呉る。朝温かにて水浴好都合。夕飯四時。鯨肉百匁五十銭を、五十匁求め来られ、鋤焼きして召し上がる。母堂も好物らし。堅き為、余には当惑するのみ。八時半よりミワさん風呂行き。今朝、伊勢さん

白餅27持参、二階にも頒与されたる由。糯米正月用、一升七合九十四錢にて部落会より配給あり。棄権者相当多かりし由なるも、当たり組みにはなし。

昭和16年1月30日（木）

曇り、時々小雨又は小雪。切手請求なし。良助より返信あり。結婚の件、本年は是が非でも貰ふと申越す。何と云ふ謂ひ分かと思はる。ミワさんに相談す。時計昨日持来たりしも、今日再び振り止まり、後ろに紙を当て調節し漸く活動す。戸外は寒し。午後より陽射すことあるも、風強く雲の去来繁し。客年（かくねん）十月注文の木版類、今日送付あり。振替払込み印は代引き廃止の結果、差し当たり必要なきに至れり。別府休養所資金拾五円、利息2, 25は如何なる訳か、右机の抽斗に挿入の儘になり居るを発見。明日交付の十二月分保険費、拾二円五拾銭と併せ、錦を求むることとなれり。

昭和16年1月31日（金）

朝、白雪皚々（がいがい）吹雪。便所の掃除幾度、少時すれば忽ち白く積もる。寒気強し。五時前十分仕度して体操を初む。ミワさん余の長靴にて参詣。切手請求中止。萩の餅今朝五つ残り、余三つ頂き是れにて没有。改めて不足量御飯を頂く。終日吹雪。四五寸積もる量ありしも、道路は割合積もらず。伊勢さんバスにて出勤。夕刻四時五十分発のバスは満員にて、五時のにて出発。此の夕、中暦にして歳暮運蕎麦40、うどん25、蕎麦7ヶうどん10ヶ、余過半数を平らげたり。頃日、電熱器使用せず。暖房を用ゆ。